

【表紙】	
【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月29日
【発行者名】	楽天投信投資顧問株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 東 眞之
【本店の所在の場所】	東京都世田谷区玉川一丁目14番1号
【事務連絡者氏名】	石舘 真 連絡場所：東京都世田谷区玉川一丁目14番1号
【電話番号】	03-6432-7746
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	楽天ターゲットイヤー2030 楽天ターゲットイヤー2040 楽天ターゲットイヤー2050
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	当初申込日 100億円を上限とします。 継続申込期間 2,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、半期報告書を提出いたしましたので、平成28年9月14日付で提出した有価証券届出書（以下、「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報に訂正するため、また記載事項のうち、訂正すべき事項がありますので、本訂正届出書を提出するものです。

【訂正の内容】

原届出書において、以下に記載した箇所を、＜訂正前＞の内容から＜訂正後＞の内容に訂正し、また、更新します。

_____部分は、訂正部分を示します。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

<訂正前>

(前略)

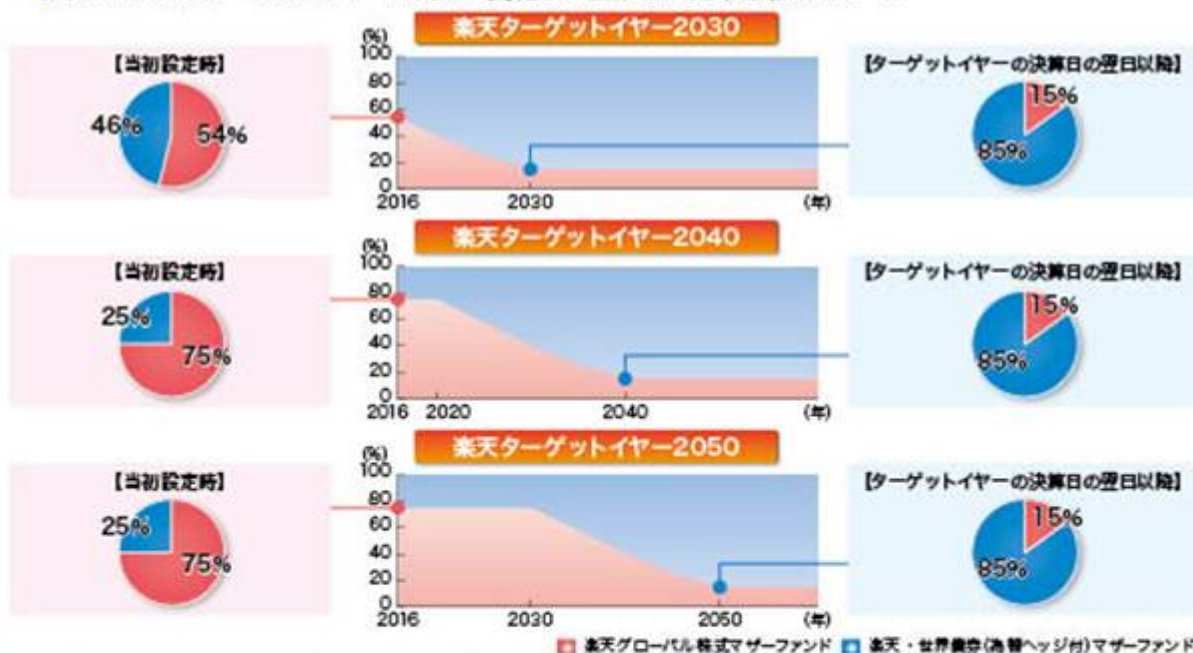
ファンドの特色

1 日本を含む先進国の株式および債券に分散投資

- ◆ 楽天グローバル株式マザーファンドおよび楽天・世界債券(為替ヘッジ付)マザーファンド(以下、両ファンドを総称して「マザーファンド」といいます。)受益証券を主要投資対象とします。
- ◆ マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を含む先進国の株式および債券を主要投資対象として広く分散投資を行うことで、リスク分散を図りながら収益の獲得を目指します。
- ◆ 楽天グローバル株式マザーファンド受益証券における実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。楽天・世界債券(為替ヘッジ付)マザーファンド受益証券については、その主要投資対象とする投資信託証券を通じて、原則として実質組入外貨建資産の対円で為替ヘッジを行います。

2 ターゲットイヤーに向けて先進国の株式および債券の組入比率を調整

- ◆ 各ファンドが設定するターゲットイヤー(2030年、2040年、2050年)に向けて、楽天グローバル株式マザーファンド受益証券の組入れを漸減させ、楽天・世界債券(為替ヘッジ付)マザーファンド受益証券の組入れを漸増させます。なお、ターゲットイヤーの決算日の翌日以降は、マザーファンド受益証券の基本組入比率を一定とします。
- ◆ 各ファンドのターゲットイヤーに向けて変化する基本組入比率推移のイメージ



※2016年9月現在で計画している基本組入比率であり、将来の基本組入比率は市況動向等により変更となる場合があります。
 ※解約資金対応のためファンドにおいて現金等を保有する必要性があるため、実際の組入比率の推移は、上記とは異なる場合があります。
 ※組入有価証券等の価格変動により、ファンドの実際の組入比率が、その時点での基本組入比率から乖離することがあります。
 なお、こうした乖離が一定水準以上となった場合には、基本組入比率の変更計画に基づく定期的なポートフォリオの見直し以外のタイミングであっても、その時点でポートフォリオの調整(リバランス)を行う場合があります。

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

3 学術的研究をベースにした、ディメンショナル独自の投資哲学による運用

- ◆ マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッドが運用する投資信託証券へ投資します。

※ディメンショナルは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッドおよびその関係会社の総称です。また、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッドは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・エルピー（米国）の子会社です。

【ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズとは？】

- ◆ 投資哲学に賛同する機関投資家やFA（ファイナンシャル・アドバイザー）からの絶大な支持を受け、世界有数の運用会社としての地位を確立しています。

- ポートフォリオ・マネジメント&トレーディング
- クライアント・サービス



出所：ディメンショナル

※2016年3月31日現在、1米ドル＝112.395円で換算

各拠点はディメンショナルのオフィス所在地です。“ディメンショナル”と記載がある場合、特定の事業体を示すものではなく、世界各国に展開するディメンショナルのグループ企業であるDimensional Fund Advisors LP, Dimensional Fund Advisors Ltd., DFA Australia Limited, Dimensional Fund Advisors Canada ULC, Dimensional Fund Advisors Pte. Ltd.とDimensional Japan Ltd.を指します。

- ◆ 多くの著名学者をコンサルタントとして抱え、実証研究に裏付けされた運用手法を採用するほか、学术界や顧客との継続的な対話により、常に新たな運用手法を模索しています。



- ・ 学術研究の先導者たちによる研究によって、リスクとリターンに関する新たな知見を得ます。
- ・ ディメンショナルが投資戦略を立案し、顧客からの反応を学術研究者に伝え、さらなる検証と改善を加えます。
- ・ 実際の投資戦略により忠実な形で実証研究を続け、さらに堅固な理論や、経済学の知見に基づいた投資戦略を実現させます。

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

（後略）

<訂正後>

（前略）

ファンドの特色

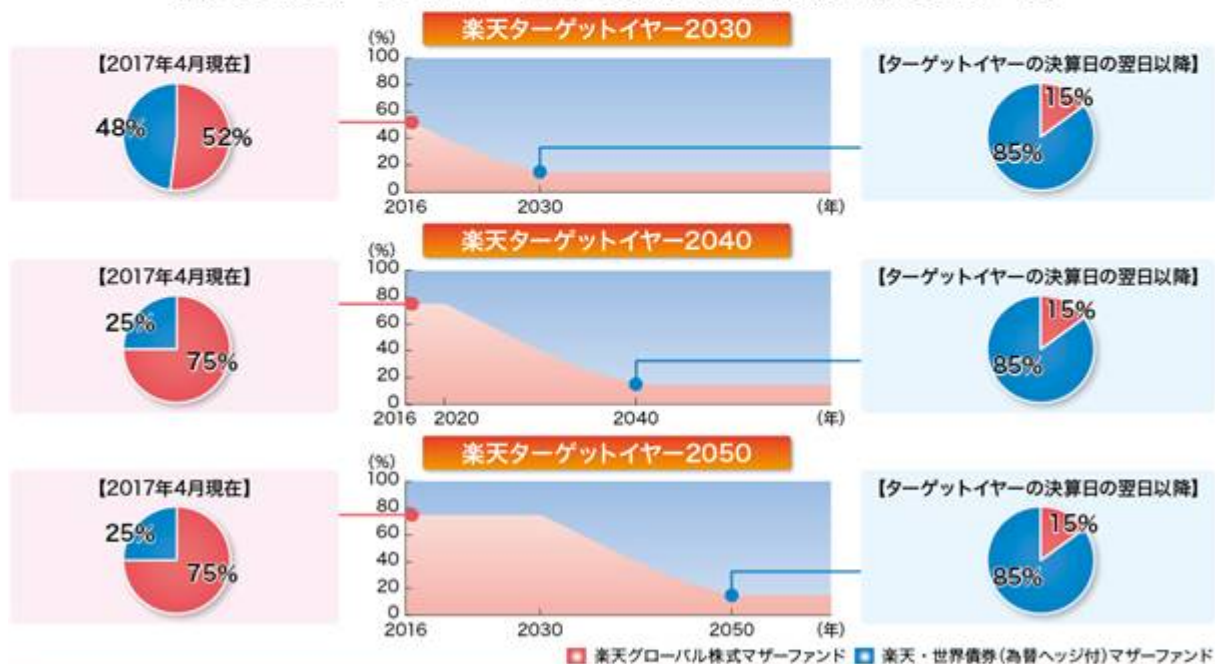
1 日本を含む先進国の株式および債券に分散投資

- ◆ 楽天グローバル株式マザーファンドおよび楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド（以下、両ファンドを総称して「マザーファンド」といいます。）受益証券を主要投資対象とします。
- ◆ マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を含む先進国の株式および債券を主要投資対象として広く分散投資を行うことで、リスク分散を図りながら収益の獲得を目指します。
- ◆ 楽天グローバル株式マザーファンド受益証券における実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド受益証券については、その主要投資対象とする投資信託証券を通じて、原則として実質組入外貨建資産の対円での為替ヘッジを行います。

2 ターゲットイヤーに向けて先進国の株式および債券の組入比率を調整

- ◆ 各ファンドが設定するターゲットイヤー（2030年、2040年、2050年）に向けて、楽天グローバル株式マザーファンド受益証券の組入れを漸減させ、楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド受益証券の組入れを漸増させます。なお、ターゲットイヤーの決算日の翌日以降は、マザーファンド受益証券の基本組入比率を一定とします。

【各ファンドのターゲットイヤーに向けて変化する基本組入比率推移のイメージ】



■ 楽天グローバル株式マザーファンド ■ 楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド

※2017年4月現在で計画している基本組入比率であり、将来の基本組入比率は市況動向等により変更となる場合があります。
 ※解約資金対応等のためファンドにおいて現金等を保有する必要があるため、実際の組入比率の推移は、上記とは異なる場合があります。
 ※組入有価証券等の価格変動により、ファンドの実際の組入比率が、その時点での基本組入比率から乖離することがあります。
 なお、こうした乖離が一定水準以上となった場合には、基本組入比率の変更計画に基づく定期的なポートフォリオの見直し以外のタイミングであっても、その時点でポートフォリオの調整（リバランス）を行う場合があります。

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

3

学術的研究をベースにした、ディメンショナル独自の投資哲学による運用

- ◆ マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッドが運用する投資信託証券へ投資します。

※ディメンショナルは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッドおよびその関係会社の総称です。また、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッドは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・エルピー（米国）の子会社です。

【ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズとは？】

- ◆ 投資哲学に賛同する機関投資家やFA（ファイナンシャル・アドバイザー）からの絶大な支持を受け、世界有数の運用会社としての地位を確立しています。

- ポートフォリオ・マネジメント&トレーディング
- クライアント・サービス



出所：ディメンショナル

※2017年3月31日現在、1米ドル=111.43円で換算

各拠点はディメンショナルのオフィス所在地です。*ディメンショナル」と記載がある場合、特定の事業体を示すものではなく、世界各国に展開するディメンショナルのグループ企業であるDimensional Fund Advisors LP, Dimensional Fund Advisors Ltd., DFA Australia Limited, Dimensional Fund Advisors Canada ULC, Dimensional Fund Advisors Pte. Ltd.とDimensional Japan Ltd.を指します。

- ◆ 多くの著名学者をコンサルタントとして抱え、実証研究に裏付けされた運用手法を採用するほか、学術界や顧客との継続的な対話により、常に新たな運用手法を模索しています。



- ・ 学術研究の先導者たちによる研究によって、リスクとリターンにおける新たな知見を得ます。
- ・ ディメンショナルが投資戦略を立案し、顧客からの反応を学術研究者に伝え、さらなる検証と改善を加えます。
- ・ 実際の投資戦略により忠実な形で実証研究を続け、さらに堅固な理論や、経済学の知見に基づいた投資戦略を実現させます。

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

（後略）

（２）【ファンドの沿革】

< 訂正前 >

平成28年10月3日 投資信託契約締結、当ファンドの設定・運用開始(予定)

< 訂正後 >

平成28年10月3日 投資信託契約締結、当ファンドの設定・運用開始

（3）【ファンドの仕組み】

< 訂正前 >

（前略）

委託会社の概況

1) 資本金の額（平成28年7月末日現在）

資本金 150百万円

（中略）

3) 大株主の状況（平成28年7月末日現在）

名称	住所	所有株式数	所有比率
楽天株式会社	東京都世田谷区玉川一丁目14番1号	13,000 株	100 %

< 訂正後 >

（前略）

委託会社の概況

1) 資本金の額（平成29年4月末日現在）

資本金 150百万円

（中略）

3) 大株主の状況（平成29年4月末日現在）

名称	住所	所有株式数	所有比率
楽天株式会社	東京都世田谷区玉川一丁目14番1号	13,000 株	100 %

2【投資方針】

(2)【投資対象】

<訂正前>

(前略)

投資対象とするマザーファンドの概要

下記概要は有価証券届出書提出日現在の予定であり、今後、記載事項は変更になる場合があります。

(中略)

(参考情報) マザーファンドが投資対象とする投資信託証券の概要

下記概要は、平成28年7月29日現在で委託会社が知り得る情報を基に作成しています。

楽天グローバル株式マザーファンド

主要投資対象とする投資信託証券

(中略)

管理報酬等	ファンドでは、管理報酬等として運用報酬およびその他の費用がかかります。	
	管理報酬等（実績）：年0.38%（平成27年11月30日決算期）	
	運用報酬	年0.30%
その他の費用	受託報酬、管理事務代行報酬、保管報酬、登録・名義書換事務代行報酬、受益者サービス報酬がファンドから支払われるほか、ファンドにかかる事務の処理等に要する諸費用（監査費用、法律顧問への報酬、印刷費用等を含みます。）が、ファンドより実費にて支払われます。また、その他、組入資産の売買委託手数料等取引に要する費用、投資信託財産に関する租税等もファンドの負担となります。	

(中略)

楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド

主要投資対象とする投資信託証券

(中略)

管理報酬等	ファンドでは、管理報酬等として運用報酬およびその他の費用がかかります。	
	管理報酬等（実績）：年0.31%（平成27年11月30日決算期）	
	運用報酬	年0.25%
その他の費用	受託報酬、管理事務代行報酬、保管報酬、登録・名義書換事務代行報酬、受益者サービス報酬がファンドから支払われるほか、ファンドにかかる事務の処理等に要する諸費用（監査費用、法律顧問への報酬、印刷費用等を含みます。）が、ファンドより実費にて支払われます。また、その他、組入資産の売買委託手数料等取引に要する費用、投資信託財産に関する租税等もファンドの負担となります。	

(後略)

< 訂正後 >

（前略）

投資対象とするマザーファンドの概要

下記概要は平成29年4月末日現在のものであり、今後、記載事項は変更になる場合があります。

（中略）

（参考情報）マザーファンドが投資対象とする投資信託証券の概要

下記概要は、平成29年4月28日現在で委託会社が知り得る情報を基に作成しています。

楽天グローバル株式マザーファンド

主要投資対象とする投資信託証券

（中略）

管理報酬等	ファンドでは、管理報酬等として運用報酬およびその他の費用がかかります。	
	管理報酬等（実績）：年0.38%（平成28年11月30日決算期）	
	運用報酬	年0.30%
その他の費用	受託報酬、管理事務代行報酬、保管報酬、登録・名義書換事務代行報酬、受益者サービス報酬がファンドから支払われるほか、ファンドにかかる事務の処理等に要する諸費用（監査費用、法律顧問への報酬、印刷費用等を含みます。）が、ファンドより実費にて支払われます。また、その他、組入資産の売買委託手数料等取引に要する費用、投資信託財産に関する租税等もファンドの負担となります。	

（中略）

楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド

主要投資対象とする投資信託証券

（中略）

管理報酬等	ファンドでは、管理報酬等として運用報酬およびその他の費用がかかります。	
	管理報酬等（実績）：年0.31%（平成28年11月30日決算期）	
	運用報酬	年0.25%
その他の費用	受託報酬、管理事務代行報酬、保管報酬、登録・名義書換事務代行報酬、受益者サービス報酬がファンドから支払われるほか、ファンドにかかる事務の処理等に要する諸費用（監査費用、法律顧問への報酬、印刷費用等を含みます。）が、ファンドより実費にて支払われます。また、その他、組入資産の売買委託手数料等取引に要する費用、投資信託財産に関する租税等もファンドの負担となります。	

（後略）

（3）【運用体制】

< 訂正前 >

（前略）

運用体制は平成28年7月末現在のものであり、今後、変更になる場合があります。

（後略）

< 訂正後 >

（前略）

運用体制は平成29年4月末現在のものであり、今後、変更になる場合があります。

（後略）

3【投資リスク】

< 訂正前 >

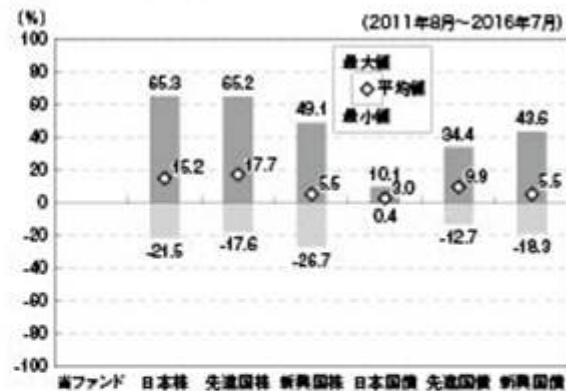
（前略）

参考情報

■ ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

該当事項はありません。

■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

なお、当ファンドの騰落率につきましては、設定前であるため、表示しておりません。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの騰落率は以下の各指数の騰落率です。

日本株…S&P日本総合指数(トータル・リターン、円ベース)

先進国株…S&P先進国総合指数(除く日本、トータル・リターン、円換算ベース)

新興国株…S&P新興国総合指数(トータル・リターン、円換算ベース)

日本国債…シティ日本国債インデックス(円ベース)

先進国債…シティ世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)

新興国債…シティ新興国市場国債インデックス(円換算ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、米ドルベースの各指数を楽天投信投資顧問が円換算しております。

※上記各指数に関する知的財産権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

<訂正後>

(前略)

参考情報

■ ファンドの年間騰落率および分配金再投資
基準価額の推移

楽天ターゲットイヤー 2030



※上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率および分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。(当ファンドの設定日以降で、算出可能な期間についてのみ表示しています。)

※当ファンドの年間騰落率は、運用期間が1年に満たないため、表示しておりません。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。(分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。)

■ ファンドの年間騰落率および分配金再投資
基準価額の推移

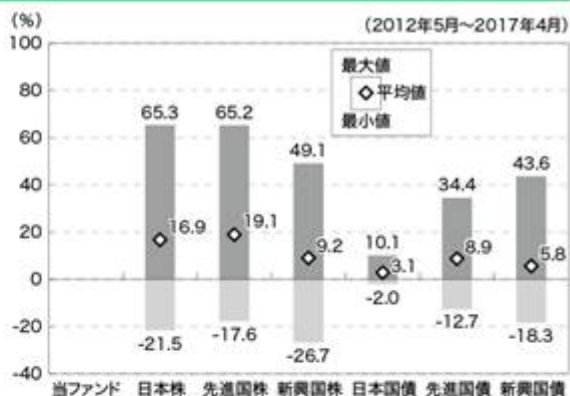
楽天ターゲットイヤー 2040



※上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率および分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。(当ファンドの設定日以降で、算出可能な期間についてのみ表示しています。)

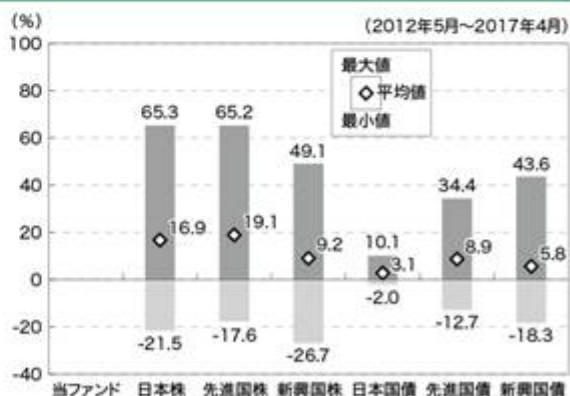
※当ファンドの年間騰落率は、運用期間が1年に満たないため、表示しておりません。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。(分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。)

■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの
騰落率の比較

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。なお、当ファンドの運用期間が1年に満たないため、当ファンドの騰落率は表示しておりません。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの
騰落率の比較

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。なお、当ファンドの運用期間が1年に満たないため、当ファンドの騰落率は表示しておりません。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

■ ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

楽天ターゲットイヤー 2050

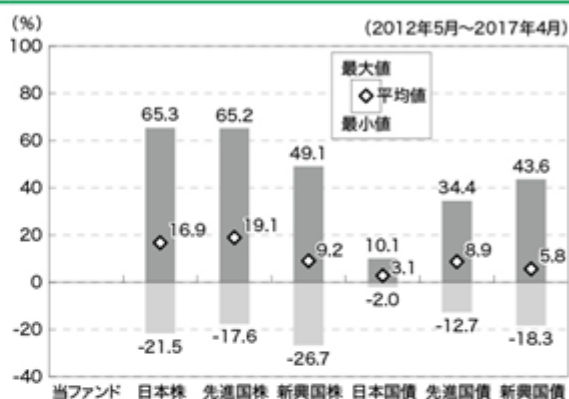


※上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率および分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。(当ファンドの設定日以降で、算出可能な期間についてのみ表示しています。)

※当ファンドの年間騰落率は、運用期間が1年に満たないため、表示しておりません。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。(分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。)

■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。なお、当ファンドの運用期間が1年に満たないため、当ファンドの騰落率は表示しておりません。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの騰落率は以下の各指数の騰落率です。

日本株…S&P日本総合指数(トータル・リターン、円ベース)

先進国株…S&P先進国総合指数(除く日本、トータル・リターン、円換算ベース)

新興国株…S&P新興国総合指数(トータル・リターン、円換算ベース)

日本国債…シティ日本国債インデックス(円ベース)

先進国債…シティ世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)

新興国債…シティ新興国市場国債インデックス(円換算ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、米ドルベースの各指数を楽天投信投資顧問が円換算しております。

※上記各指数に関する知的財産権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

4 【手数料等及び税金】

(3) 【信託報酬等】

< 訂正前 >

(前略)

楽天グローバル株式マザーファンド

(中略)

(注) 平成27年11月30日現在。今後、投資内容等によりこの数値は変動します。

楽天・世界債券(為替ヘッジ付)マザーファンド

(中略)

(注) 平成27年11月30日現在。今後、投資内容等によりこの数値は変動します。

(中略)

* 税額は、平成28年7月末日現在のものであり、税法が改正された場合、その内容が変更されることがあります。

< 訂正後 >

(前略)

楽天グローバル株式マザーファンド

(中略)

(注) 平成28年11月30日現在。今後、投資内容等によりこの数値は変動します。

楽天・世界債券(為替ヘッジ付)マザーファンド

（中略）

（注）平成28年11月30日現在。今後、投資内容等によりこの数値は変動します。

（中略）

* 税額は、平成29年4月末日現在のものであり、税法が改正された場合、その内容が変更されることがあります。

（5）【課税上の取扱い】

<訂正前>

課税上は、株式投資信託として扱われます。

個人の受益者の場合

（中略）

2）一部解約金・償還金の取扱い

（中略）

（注2）少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。また、平成28年4月1日より、20歳未満の方を対象とした「ジュニアNISA」制度がご利用になります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

（後略）

<訂正後>

課税上は、株式投資信託として扱われます。

個人の受益者の場合

（中略）

2) 一部解約金・償還金の取扱い

（中略）

（注2）少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

満20歳以上の方を対象とした少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。また、20歳未満の方を対象とした非課税制度「ジュニアNISA」をご利用の場合、毎年、年間80万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

（後略）

5【運用状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」の情報を更新します。

<更新後>

(1)【投資状況】

「楽天ターゲットイヤー2030」 (平成29年4月28日現在)

資産の種類	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	25,068,013	99.93
内 日本	25,068,013	99.93
短期金融資産、その他(負債控除後)	17,351	0.07
純資産総額	25,085,364	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

「楽天ターゲットイヤー2040」 (平成29年4月28日現在)

資産の種類	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	17,472,192	99.91
内 日本	17,472,192	99.91
短期金融資産、その他(負債控除後)	16,124	0.09
純資産総額	17,488,316	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

「楽天ターゲットイヤー2050」 (平成29年4月28日現在)

資産の種類	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	10,017,028	99.89
内 日本	10,017,028	99.89
短期金融資産、その他(負債控除後)	10,782	0.11
純資産総額	10,027,810	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

「楽天ターゲットイヤー2030」

(平成29年4月28日現在)

	銘柄名 地域	種類 業種	株数、口数 または 額面金額	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 評価金額(円)	利率(%) 償還日	投資 比率 (%)
1	楽天グローバル株式 マザーファンド 日本	親投資信託 受益証券 -	10,863,852	1.17215 12,734,124	1.217 13,221,307	- -	52.71
2	楽天・世界債券 (為替ヘッジ付) マザーファンド 日本	親投資信託 受益証券 -	11,969,997	0.98436 11,782,860	0.9897 11,846,706	- -	47.23

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.93
合計	99.93

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

「楽天ターゲットイヤー2040」

(平成29年4月28日現在)

	銘柄名 地域	種類 業種	株数、口数 または 額面金額	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 評価金額(円)	利率(%) 償還日	投資 比率 (%)
1	楽天グローバル株式 マザーファンド 日本	親投資信託 受益証券 -	10,815,044	1.1759 12,717,494	1.217 13,161,908	- -	75.26
2	楽天・世界債券 (為替ヘッジ付) マザーファンド 日本	親投資信託 受益証券 -	4,355,142	0.9856 4,292,441	0.9897 4,310,284	- -	24.65

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.91
合計	99.91

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

「楽天ターゲットイヤー2050」

(平成29年4月28日現在)

	銘柄名 地域	種類 業種	株数、口数 または 額面金額	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 評価金額(円)	利率(%) 償還日	投資 比率 (%)
--	-----------	----------	----------------------	--------------------	--------------------	--------------	-----------------

1	楽天グローバル株式 マザーファンド 日本	親投資信託 受益証券 -	6,201,395	1.16901	1.217	-	75.26
				7,249,525	7,547,097	-	
2	楽天・世界債券 (為替ヘッジ付) マザーファンド 日本	親投資信託 受益証券 -	2,495,637	0.98668	0.9897	-	24.63
				2,462,409	2,469,931	-	

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.89
合計	99.89

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成29年4月28日現在および同日前1年以内における各月末営業日の純資産の推移は次の通りです。

「楽天ターゲットイヤー2030」

	純資産総額		1口当たりの純資産額	
	(分配落) (円)	(分配付) (円)	(分配落) (円)	(分配付) (円)
設定時 (平成28年10月3日)	1,000,000	-	1.0000	-
平成28年10月末日	1,001,857	-	1.0019	-
11月末日	4,410,842	-	1.0496	-
12月末日	6,590,811	-	1.0801	-
平成29年1月末日	13,443,646	-	1.0765	-
2月末日	16,911,428	-	1.0894	-
3月末日	19,319,038	-	1.0873	-
4月末日	25,085,364	-	1.0955	-

「楽天ターゲットイヤー2040」

	純資産総額		1口当たりの純資産額	
	(分配落) (円)	(分配付) (円)	(分配落) (円)	(分配付) (円)
設定時 (平成28年10月3日)	1,000,000	-	1.0000	-
平成28年10月末日	1,006,015	-	1.0060	-
11月末日	1,103,764	-	1.0774	-
12月末日	6,117,822	-	1.1227	-
平成29年1月末日	8,145,030	-	1.1180	-
2月末日	9,859,828	-	1.1350	-
3月末日	10,246,382	-	1.1329	-
4月末日	17,488,316	-	1.1431	-

「楽天ターゲットイヤー2050」

	純資産総額		1口当たりの純資産額	
	(分配落) (円)	(分配付) (円)	(分配落) (円)	(分配付) (円)
設定時 (平成28年10月3日)	1,000,000	-	1.0000	-
平成28年10月末日	1,006,015	-	1.0060	-
11月末日	1,077,242	-	1.0772	-
12月末日	2,204,916	-	1.1219	-
平成29年1月末日	2,785,133	-	1.1167	-
2月末日	5,414,848	-	1.1335	-

3月末日	6,978,865	-	1.1316	-
4月末日	10,027,810	-	1.1419	-

【分配の推移】

「楽天ターゲットイヤー2030」

	1口当たり分配金（円）
平成28年10月3日～ 平成29年4月2日	-

「楽天ターゲットイヤー2040」

	1口当たり分配金（円）
平成28年10月3日～ 平成29年4月2日	-

「楽天ターゲットイヤー2050」

	1口当たり分配金（円）
平成28年10月3日～ 平成29年4月2日	-

【収益率の推移】

「楽天ターゲットイヤー2030」

	収益率（％）
平成28年10月3日～ 平成29年4月2日	8.7

（注）収益率とは、各計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を基準とした、各計算期間末の基準価額（分配付）の上昇（または下落）率をいいます。なお、収益率は小数第2位を四捨五入しています。

ただし、平成28年10月3日（設定日）から平成29年4月2日までの期間については平成29年4月2日の基準価額から当初元本（1口当たり1円）を控除した額を当初元本（1口当たり1円）で除して得た数に100を乗じて得た数をいいます。

「楽天ターゲットイヤー2040」

	収益率（％）
平成28年10月3日～ 平成29年4月2日	13.3

（注）収益率とは、各計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を基準とした、各計算期間末の基準価額（分配付）の上昇（または下落）率をいいます。なお、収益率は小数第2位を四捨五入しています。

ただし、平成28年10月3日（設定日）から平成29年4月2日までの期間については平成29年4月2日の基準価額から当初元本（1口当たり1円）を控除した額を当初元本（1口当たり1円）で除して得た数に100を乗じて得た数をいいます。

「楽天ターゲットイヤー2050」

	収益率（％）
平成28年10月3日～ 平成29年4月2日	13.2

（注）収益率とは、各計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を基準とした、各計算期間末の基準価額（分配付）の上昇（または下落）率をいいます。なお、収益率は小数第2位を四捨五入しています。

ただし、平成28年10月3日（設定日）から平成29年4月2日までの期間については平成29年4月2日の基準価額から当初元本（1口当たり1円）を控除した額を当初元本（1口当たり1円）で除して得た数に100を乗じて得た数をいいます。

（参考情報）運用実績

楽天ターゲットイヤー 2030

2017年4月28日現在 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移



基準価額	10,955円
純資産総額	25 百万円

※「分配金再投資基準価額」は、税引前分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において信託報酬は控除しています。

分配の推移（10,000 口当たり、税引前）

決算期	第1期 2017年9月20日	設定来累計
分配金	未到来	0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

主要な資産の状況

楽天グローバル株式マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	98.5%
iシェアーズ MSCI ワールド ETF	投資信託証券	アメリカ	米ドル	0.0%

※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを52.7%組入れています。

楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	97.7%
iシェアーズ 米国債7-10年ETF（為替ヘッジあり）	投資信託証券	日本	円	0.0%

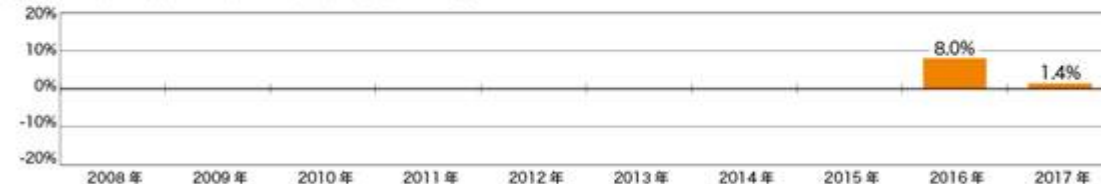
※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを47.2%組入れています。

※国/地域は、各投資信託証券の発行地です。

※投資比率は、各マザーファンドの純資産総額に対する各資産の評価額の比率です。

年間収益率の推移（暦年ベース）

当ファンドには、ベンチマークはありません。



※ファンドの「年間収益率」は、「税引前分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※2016年は設定日(2016年10月3日)から年末まで、2017年は4月末までの騰落率を表しています。

最新の運用実績については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

楽天ターゲットイヤー 2040

2017年4月28日現在 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移



基準価額	11,431円
純資産総額	17 百万円

※「分配金再投資基準価額」は、税引前分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において信託報酬は控除しています。

分配の推移 (10,000 口当たり、税引前)

決算期	第1期	設定来累計
2017年9月20日	未到来	0円

※分配金は、収益配分方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。
 分配金が支払われない場合もあります。

主要な資産の状況

楽天グローバル株式マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	98.5%
iシェアーズ MSCI ワールド ETF	投資信託証券	アメリカ	米ドル	0.0%

※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを75.3%組入れています。

楽天・世界債券 (為替ヘッジ付) マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	97.7%
iシェアーズ 米国債7-10年ETF (為替ヘッジあり)	投資信託証券	日本	円	0.0%

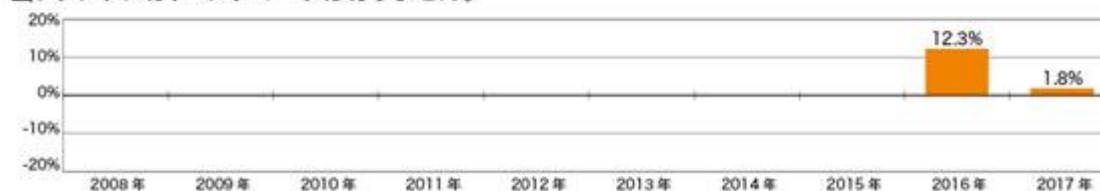
※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを24.6%組入れています。

※国/地域は、各投資信託証券の発行地です。

※投資比率は、各マザーファンドの純資産総額に対する各資産の評価額の比率です。

年間収益率の推移 (暦年ベース)

当ファンドには、ベンチマークはありません。



※ファンドの「年間収益率」は、「税引前分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※2016年は設定日(2016年10月3日)から年末まで、2017年は4月末までの騰落率を表しています。

最新の運用実績については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

楽天ターゲットイヤー 2050

2017年4月28日現在 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移



基準価額	11,419円
純資産総額	10 百万円

※「分配金再投資基準価額」は、税引前分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において信託報酬は控除しています。

分配の推移 (10,000 口当たり、税引前)

決算期	第1期	設定来累計
2017年9月20日	未到来	0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。
 分配金が支払われない場合もあります。

主要な資産の状況

楽天グローバル株式マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	98.5%
iシェアーズ MSCI ワールド ETF	投資信託証券	アメリカ	米ドル	0.0%

※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを75.3%組み入れています。

楽天・世界債券 (為替ヘッジ付)マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	97.7%
iシェアーズ 米国債7-10年ETF (為替ヘッジあり)	投資信託証券	日本	円	0.0%

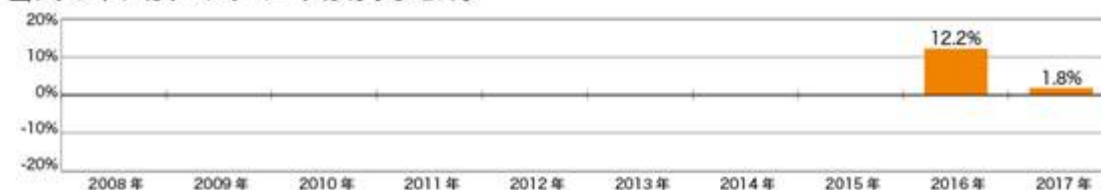
※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを24.6%組み入れています。

※国/地域は、各投資信託証券の発行地です。

※投資比率は、各マザーファンドの純資産総額に対する各資産の評価額の比率です。

年間収益率の推移 (暦年ベース)

当ファンドには、ベンチマークはありません。



※ファンドの「年間収益率」は、「税引前分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※2016年は設定日(2016年10月3日)から年末まで、2017年は4月末までの騰落率を表しています。

最新の運用実績については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

(4) 【設定及び解約の実績】

「楽天ターゲットイヤー2030」

	設定数量（口）	解約数量（口）	発行済数量（口）
平成28年10月3日～ 平成29年4月2日	19,094,386	1,325,831	17,768,555

（注）当初申込期間中の設定数量は1,000,000口です。

「楽天ターゲットイヤー2040」

	設定数量（口）	解約数量（口）	発行済数量（口）
平成28年10月3日～ 平成29年4月2日	11,142,962	1,104,339	10,038,623

（注）当初申込期間中の設定数量は1,000,000口です。

「楽天ターゲットイヤー2050」

	設定数量（口）	解約数量（口）	発行済数量（口）
平成28年10月3日～ 平成29年4月2日	6,169,290	1,996	6,167,294

（注）当初申込期間中の設定数量は1,000,000口です。

(参考) 楽天グローバル株式マザーファンド

(1) 投資状況

（平成29年4月28日現在）

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託証券	130,439,082	98.46
内 アイルランド	130,430,269	98.46
内 アメリカ	8,813	0.01
短期金融資産、その他（負債控除後）	2,037,942	1.54
純資産総額	132,477,024	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

（注2）投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

（平成29年4月28日現在）

	銘柄名 地域	種類 業種	株数、口数 または 額面金額	簿価単価（円） 簿価金額（円）	評価単価（円） 評価金額（円）	利率（％） 償還日	投資 比率 （％）
1	ディメンショナル・ ファンズ・ピーエル シー グローバル・ コア・エクイティ・ ファンド アイルランド	投資信託 証券	106,666.996	1,121.52 119,629,335	1,222.78 130,430,269	- -	98.46
2	iシェアーズMSCIワー ルドETF アメリカ	投資信託 証券	1.00	8,079.65 8,079	8,813.05 8,813	- -	0.01

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率（％）
投資信託証券	98.46
合計	98.46

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

（参考）楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド

（1）投資状況

（平成29年4月28日現在）

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託証券	330,120,050	97.71
内 アイルランド	330,112,895	97.71
内 日本	7,155	0.00
短期金融資産、その他（負債控除後）	7,726,674	2.29
純資産総額	337,846,724	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

（注2）投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

（2）投資資産

投資有価証券の主要銘柄

（平成29年4月28日現在）

	銘柄名 地域	種類 業種	株数、口数 または 額面金額	簿価単価（円） 簿価金額（円）	評価単価（円） 評価金額（円）	利率（％） 償還日	投資 比率 （％）
1	ディメンショナル・ ファンズ・ピーエル シー グローバル・ ショート・フィクス ト・インカム・ファン ド アイルランド	投資信託 証券 -	314,486.082	1,048.28 329,670,169	1,049.69 330,112,895	- -	97.71
2	iシェアーズ米国債7 - 10年ETF（為替 ヘッジあり） 日本	投資信託 証券 -	3.00	2,547.66 7,643	2,385.00 7,155	- -	0.00

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率（％）
-----------	---------

投資信託証券	97.71
合計	97.71

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

第3【ファンドの経理状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」の情報を更新します。

<更新後>

楽天ターゲットイヤー2030 / 2040 / 2050

- (1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）（以下「中間財務諸表等規則」という。）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）（以下、「投資信託財産計算規則」という。）に基づいて作成しております。
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期中間計算期間（平成28年10月3日から平成29年4月2日まで）の中間財務諸表については、新日本有限責任監査法人により中間監査を受けております。

1【財務諸表】

【楽天ターゲットイヤー2030】

(1)【中間貸借対照表】

区 分	第1期中間計算期間末 平成29年4月2日現在 金 額（円）
資産の部	
流動資産	
金銭信託	75,576
親投資信託受益証券	19,303,113
流動資産合計	19,378,689
資産合計	19,378,689
負債の部	
流動負債	
未払解約金	13,752
未払受託者報酬	1,171
未払委託者報酬	23,232
その他未払費用	22,544
流動負債合計	60,699
負債合計	60,699
純資産の部	
元本等	
元本	17,768,555
剰余金	
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	1,549,435
（分配準備積立金）	-
元本等合計	19,317,990
純資産合計	19,317,990
負債純資産合計	19,378,689

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

区 分	第1期中間計算期間 自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日 金 額（円）
営業収益	
有価証券売買等損益	323,113
営業収益合計	323,113
営業費用	
支払利息	2
受託者報酬	1,171
委託者報酬	23,232
その他費用	22,544
営業費用合計	46,949
営業利益又は営業損失（ ）	276,164
経常利益又は経常損失（ ）	276,164
中間純利益又は中間純損失（ ）	276,164
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	46,422
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,387,478
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は 欠損金減少額	1,387,478
剰余金減少額又は欠損金増加額	67,785
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は 欠損金増加額	67,785
分配金	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	1,549,435

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	金融商品の時価に関する補足情報 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第1期中間計算期間末 平成29年4月2日現在
1. 受益権総数	17,768,555口
2. 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0872円 (10,872円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期中間計算期間 自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日
該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期中間計算期間末 平成29年 4月 2日現在
1. 貸借対照表計上額と時価との差額	中間貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3)上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

第1期中間計算期間末 平成29年 4月 2日現在
該当事項はありません。

（その他の注記）

項 目	第1期中間計算期間 自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日
元本の推移	
期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	18,094,386円
期中一部解約元本額	1,325,831円

【楽天ターゲットイヤー2040】

(1) 【中間貸借対照表】

区 分	第1期中間計算期間末 平成29年4月2日現在 金 額（円）
資産の部	
流動資産	
金銭信託	2,389,038
親投資信託受益証券	10,242,641
流動資産合計	12,631,679
資産合計	12,631,679
負債の部	
流動負債	
未払解約金	1,226,900
未払受託者報酬	746
未払委託者報酬	14,705
その他未払費用	16,883
流動負債合計	1,259,234
負債合計	1,259,234
純資産の部	
元本等	
元本	10,038,623
剰余金	
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	1,333,822
（分配準備積立金）	-
元本等合計	11,372,445
純資産合計	11,372,445
負債純資産合計	12,631,679

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

区 分	第1期中間計算期間 自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日 金 額（円）
営業収益	
有価証券売買等損益	252,641
営業収益合計	252,641
営業費用	
支払利息	2
受託者報酬	746
委託者報酬	14,705
その他費用	16,883
営業費用合計	32,336
営業利益又は営業損失（ ）	220,305
経常利益又は経常損失（ ）	220,305
中間純利益又は中間純損失（ ）	220,305
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	18,497
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,252,909
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は 欠損金減少額	1,252,909
剰余金減少額又は欠損金増加額	120,895
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は 欠損金増加額	120,895
分配金	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	1,333,822

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	金融商品の時価に関する補足情報 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第1期中間計算期間末 平成29年4月2日現在
1. 受益権総数	10,038,623口
2. 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.1329円 (11,329円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期中間計算期間 自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日
該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期中間計算期間末 平成29年 4月 2日現在
1. 貸借対照表計上額と時価との差額	中間貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3)上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

第1期中間計算期間末 平成29年 4月 2日現在
該当事項はありません。

（その他の注記）

項 目	第1期中間計算期間 自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日
元本の推移	
期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	10,142,962円
期中一部解約元本額	1,104,339円

【楽天ターゲットイヤー2050】

(1) 【中間貸借対照表】

区 分	第1期中間計算期間末 平成29年4月2日現在 金 額（円）
資産の部	
流動資産	
金銭信託	29,041
親投資信託受益証券	6,968,763
流動資産合計	6,997,804
資産合計	6,997,804
負債の部	
流動負債	
未払受託者報酬	375
未払委託者報酬	7,269
その他未払費用	11,615
流動負債合計	19,259
負債合計	19,259
純資産の部	
元本等	
元本	6,167,294
剰余金	
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	811,251
（分配準備積立金）	-
元本等合計	6,978,545
純資産合計	6,978,545
負債純資産合計	6,997,804

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

区 分	第1期中間計算期間 自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日 金 額（円）
営業収益	
有価証券売買等損益	178,763
営業収益合計	178,763
営業費用	
受託者報酬	375
委託者報酬	7,269
その他費用	11,615
営業費用合計	19,259
営業利益又は営業損失（ ）	159,504
経常利益又は経常損失（ ）	159,504
中間純利益又は中間純損失（ ）	159,504
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	169
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	652,012
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は 欠損金減少額	652,012
剰余金減少額又は欠損金増加額	96
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は 欠損金増加額	96
分配金	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	811,251

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	金融商品の時価に関する補足情報 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第1期中間計算期間末 平成29年4月2日現在
1. 受益権総数	6,167,294口
2. 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.1315円 (11,315円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期中間計算期間 自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日
該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期中間計算期間末 平成29年 4月 2日現在
1. 貸借対照表計上額と時価との差額	中間貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3)上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

第1期中間計算期間末 平成29年 4月 2日現在
該当事項はありません。

（その他の注記）

項 目	第1期中間計算期間 自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日
元本の推移	
期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	5,169,290円
期中一部解約元本額	1,996円

（参考情報）

「楽天ターゲットイヤー2030」、「楽天ターゲットイヤー2040」、「楽天ターゲットイヤー2050」は、「楽天グローバル株式マザーファンド」受益証券、「楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

「楽天ターゲットイヤー2030」、「楽天ターゲットイヤー2040」、「楽天ターゲットイヤー2050」の中間計算期間末日における同マザーファンドの状況は、以下のとおりです。

なお、以下に記載した情報は、監査の対象外です。

「楽天グローバル株式マザーファンド」の状況

楽天グローバル株式マザーファンド

貸借対照表

区 分	平成29年 4月 2日現在 金 額（円）
資産の部	
流動資産	
預金	120
金銭信託	1,488,049
投資信託受益証券	120,046,653
流動資産合計	121,534,822
資産合計	121,534,822
負債の部	
流動負債	
未払金	1,200,000
流動負債合計	1,200,000
負債合計	1,200,000
純資産の部	
元本等	
元本	99,962,994
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	20,371,828
元本等合計	120,334,822
純資産合計	120,334,822
負債純資産合計	121,534,822

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の市場価格又は基準価額に基づいて評価しております。
2. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客直物電信売買相場の仲値によって計算しております。
3. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 投資信託受益証券の収益分配金を、原則として収益分配金落ちの売買が行われる日において、当該金額を計上しております。 有価証券売買等損益及び為替差損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	1. 外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定および外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。 2. 金融商品の時価に関する補足情報 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(貸借対照表に関する注記)

項目	平成29年 4月 2日現在
1. 本報告書における開示対象ファンドの中間計算期間末日における当該親投資信託の受益権総数	99,962,994口
2. 本報告書における開示対象ファンドの中間計算期間末日における当該親投資信託の1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.2038円 (12,038円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	平成29年 4月 2日現在
1. 貸借対照表計上額と時価との差額	貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。 (3) 上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

平成29年 4月 2日現在
該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日
1. 元本の推移	
本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	960,000円
同期中における追加設定元本額	100,031,596円
同期中における一部解約元本額	1,028,602円
2. 同中間期末における元本の内訳	
ファンド名	
楽天グローバル株式ファンド	80,769,061円
楽天ターゲットイヤー2030	8,432,810円
楽天ターゲットイヤー2040	6,402,062円
楽天ターゲットイヤー2050	4,359,061円
計	99,962,994円

「楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド」の状況

楽天・世界債券（為替ヘッジ付）マザーファンド

貸借対照表

区 分	平成29年 4月 2日現在 金 額（円）
資産の部	
流動資産	
金銭信託	4,327,212
投資信託受益証券	334,640,160
流動資産合計	338,967,372
資産合計	338,967,372
負債の部	
流動負債	
未払金	3,200,000
流動負債合計	3,200,000
負債合計	3,200,000
純資産の部	
元本等	
元本	340,893,002
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	5,125,630
元本等合計	335,767,372
純資産合計	335,767,372
負債純資産合計	338,967,372

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の市場価格又は基準価額に基づいて評価しております。</p>
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 投資信託受益証券の収益分配金を、原則として収益分配金落ちの売買が行われる日において、当該金額を計上しております。</p> <p>有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>金融商品の時価に関する補足情報 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	平成29年 4月 2日現在
1. 本報告書における開示対象ファンドの中間計算期間末日における当該親投資信託の受益権総数	340,893,002口
2. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は5,125,630円であります。
3. 本報告書における開示対象ファンドの中間計算期間末日における当該親投資信託の1口当たり純資産額（1万口当たり純資産額）	0.9850円 (9,850円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	平成29年 4月 2日現在
1. 貸借対照表計上額と時価との差額	貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記に記載しております。</p> <p>(3) 上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

(デリバティブ取引に関する注記)

平成29年 4月 2日現在

該当事項はありません。

（その他の注記）

項 目	自 平成28年10月 3日 至 平成29年 4月 2日
1. 元本の推移	
本報告書における開示対象ファンドの期首における 当該親投資信託の元本額	960,000円
同期中における追加設定元本額	342,324,476円
同期中における一部解約元本額	2,391,474円
2. 同中間期末における元本の内訳	
ファンド名	
楽天・世界債券（為替ヘッジ付）ファンド	327,279,943円
楽天ターゲットイヤー2030	9,291,063円
楽天ターゲットイヤー2040	2,574,456円
楽天ターゲットイヤー2050	1,747,540円
計	340,893,002円

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

「楽天ターゲットイヤー2030」 (平成29年4月28日現在)

項目	金額または口数
資産総額	25,100,373円
負債総額	15,009円
純資産総額 (-)	25,085,364円
発行済数量	22,898,866口
1単位当たり純資産額 (/)	1.0955円

「楽天ターゲットイヤー2040」 (平成29年4月28日現在)

項目	金額または口数
資産総額	17,512,611円
負債総額	24,295円
純資産総額 (-)	17,488,316円
発行済数量	15,298,851口
1単位当たり純資産額 (/)	1.1431円

「楽天ターゲットイヤー2050」 (平成29年4月28日現在)

項目	金額または口数
資産総額	10,034,504円
負債総額	6,694円
純資産総額 (-)	10,027,810円
発行済数量	8,782,006口
1単位当たり純資産額 (/)	1.1419円

(参考)「楽天グローバル株式マザーファンド」

(平成29年4月28日現在)

項目	金額または口数
資産総額	133,607,036円
負債総額	1,130,012円
純資産総額 (-)	132,477,024円
発行済数量	108,851,602口
1単位当たり純資産額 (/)	1.2170円

(参考)「楽天・世界債券(為替ヘッジ付)マザーファンド」

(平成29年4月28日現在)

項目	金額または口数
資産総額	338,416,760円
負債総額	570,036円
純資産総額 (-)	337,846,724円
発行済数量	341,345,596口
1単位当たり純資産額 (/)	0.9897円

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<訂正前>

(1) 資本金の額（平成28年7月末日現在）

（後略）

<訂正後>

(1) 資本金の額（平成29年4月末日現在）

（後略）

2【事業の内容及び営業の概況】

<更新後>

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として、その運用（投資運用業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務の一部および投資助言・代理業務を行っています。

平成29年4月末日現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。

種 類	本 数	純資産総額
追加型株式投資信託	25本	120,599百万円
合 計	25本	120,599百万円

3【委託会社等の経理状況】

原届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況」の情報を更新します。

<更新後>

1. 委託会社である楽天投信投資顧問株式会社（以下「当社」といいます。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」といいます。）、並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年8月30日大蔵省令第38号、以下「中間財務諸表等規則」という）、並びに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
2. 財務諸表及び中間財務諸表に記載している金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
3. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第10期事業年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けており、中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日現在)		当事業年度 (平成28年3月31日現在)	
資産の部				
流動資産				
現金・預金		572,617		633,193
金銭の信託		900,000		1,300,000
前払費用		4,127		3,746
未収入金		-		5,305
未収委託者報酬		168,395		163,708
未収収益		1		-
立替金		2,243		5,135
繰延税金資産		48,157		15,498
その他		25		-
流動資産計		1,695,567		2,126,587
固定資産				
有形固定資産	1	13,577	1	50,173
建物（純額）		4,589		29,623
器具備品（純額）		8,988		20,550
無形固定資産		0		0
ソフトウェア		0		0
投資その他の資産		52,246		1,300
投資有価証券		50,070		-
長期前払費用		2,176		1,300
固定資産計		65,824		51,474
資産合計		1,761,392		2,178,062
負債の部				
流動負債				
預り金		3,993		6,148
未払費用		86,762		89,429
未払消費税等		53,824		-
未払法人税等		44,524		132,298
賞与引当金		20,405		18,276
役員賞与引当金		8,627		6,956
流動負債計		218,136		253,109
固定負債				
繰延税金負債		22		813
資産除去債務		-		5,699
固定負債計		22		6,512
負債合計		218,159		259,622
純資産の部				
株主資本				
資本金		150,000		150,000

資本剰余金		
資本準備金	400,000	400,000
その他資本剰余金	229,716	229,716
資本剰余金合計	629,716	629,716
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	763,469	1,138,723
利益剰余金合計	763,469	1,138,723
株主資本合計	1,543,185	1,918,439
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	47	-
評価・換算差額合計	47	-
純資産合計	1,543,232	1,918,439
負債・純資産合計	1,761,392	2,178,062

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)		当事業年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	
営業収益				
委託者報酬		2,077,447		1,800,131
その他営業収益		6		1
営業収益計		2,077,454		1,800,132
営業費用				
支払手数料		957,385		807,316
広告宣伝費		4,038		1,724
通信費		55,314		65,017
協会費		2,229		2,403
諸会費		221		93
営業費用計		1,019,189		876,554
一般管理費	1・2	265,189	1・2	351,313
営業利益		793,075		572,264
営業外収益				
受取利息		143		148
有価証券利息		566		1,109
雑収入		6		27
営業外収益計		716		1,285
営業外費用				
投資有価証券売却損		-		166
為替差損		32		84
営業外費用計		32		250
経常利益		793,758		573,299
特別利益				
投資有価証券売却益		129		65
特別利益計		129		65
特別損失				
固定資産除却損		0		1,850
固定資産売却損		26		-
システム移行費用		1,720		-
事務所移転費		-		7,157
特別損失計		1,747		9,007
税引前当期純利益		792,140		564,356
法人税、住民税及び事業税		58,043		155,630
法人税等調整額		123,902		33,471
法人税等合計		181,946		189,102
当期純利益		610,194		375,254

（3）【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	150,000	400,000	229,716	629,716
当期変動額				
当期純利益				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	150,000	400,000	229,716	629,716

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金				
	繰越利益剰余金	合計				
当期首残高	153,274	153,274	932,990	33	33	933,023
当期変動額						
当期純利益	610,194	610,194	610,194			610,194
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）				14	14	14
当期変動額合計	610,194	610,194	610,194	14	14	610,208
当期末残高	763,469	763,469	1,543,185	47	47	1,543,232

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	150,000	400,000	229,716	629,716
当期変動額				
当期純利益				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	150,000	400,000	229,716	629,716

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		株主資本 合計	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金				
	繰越利益剰余金	合計				
当期首残高	763,469	763,469	1,543,185	47	47	1,543,232
当期変動額						
当期純利益	375,254	375,254	375,254			375,254
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）				47	47	47
当期変動額合計	375,254	375,254	375,254	47	47	375,207
当期末残高	1,138,723	1,138,723	1,918,439	-	-	1,918,439

〔注記事項〕

（重要な会計方針）

1．資産の評価基準及び評価方法

（1）有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

当事業年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）を採用しております。

（2）金銭の信託

時価法によっております。

2．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、以下の通りであります。

建物 10年

器具備品 4～20年

また、取得価額が100千円以上200千円未満の減価償却資産につきましては、3年均等償却によっております。

（2）無形固定資産

定額法によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアは、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

（3）長期前払費用

定額法によっております。

3．引当金の計上基準

（1）貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上することとしております。

（2）賞与引当金

従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

（3）役員賞与引当金

役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する将来の支給見込額のうち、当事業年度末において負担すべき額を計上しております。

4．その他財務諸表の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

（貸借対照表関係）

1．有形固定資産より控除した減価償却累計額

	前事業年度 （平成27年3月31日）	当事業年度 （平成28年3月31日）
有形固定資産	13,166千円	6,785千円

（損益計算書関係）

1．役員報酬の範囲

	前事業年度 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）	当事業年度 （自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）
取締役 年額	200,000千円	200,000千円
監査役 年額	30,000千円	30,000千円

2．一般管理費の主なもののうち主要な費目及び金額は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）	当事業年度 （自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）
人件費	138,905千円	168,104千円
減価償却費	2,644千円	10,317千円
賞与引当金繰入額	20,405千円	18,276千円
役員賞与引当金繰入額	8,627千円	6,956千円

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	13,000株	-	-	13,000株

2．自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4．剰余金の配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	13,000株	-	-	13,000株

2．自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4．剰余金の配当に関する事項

該当事項はありません。

（リース取引関係）

該当事項はありません。

（金融商品関係）

1．金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っております。

当社では保有する金融資産・負債から生ずる様々なリスクを横断的かつ効率的に管理し、財務の健全性の維持を図っております。

なお、余資運用に関しては、預金等安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

現金・預金は、国内通貨による預金等であり、短期間で決済されるため、為替変動リスクや価格変動リスクは殆どないと認識しております。金銭の信託は、主に債権等を裏付けとした証券化商品を運用対象としておりますが、保有している証券化商品の外部格付機関による格付評価が高いため、価格変動リスクは殆どないと認識しております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクは殆ど無いと認識しております。

投資有価証券は、主に本邦通貨建ての短期公社債に投資をしている当社運用投資信託の安定運用を目的で保有しており、価格変動リスク及び為替変動リスクは殆どないと認識しております。

未払費用につきましては、そのほとんどが一年以内で決済されます。

2．金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
資産			
(1) 現金・預金	572,617	572,617	-
(2) 金銭の信託	900,000	900,000	-
(3) 未収委託者報酬	168,395	168,395	-
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	50,070	50,070	-
資産計	1,691,082	1,691,082	-
負債			
(1) 未払費用	86,762	86,762	-
(2) 未払法人税等	44,524	44,524	-
負債計	131,286	131,286	-

当事業年度（平成28年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
資産			
(1) 現金・預金	633,193	633,193	-
(2) 金銭の信託	1,300,000	1,300,000	-
(3) 未収委託者報酬	163,708	163,708	-
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	-	-	-
資産計	2,096,901	2,096,901	-
負債			
(1) 未払費用	89,429	89,429	-
(2) 未払法人税等	132,298	132,298	-
負債計	221,727	221,727	-

(注) 1．金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金 (2) 金銭の信託 (3) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と類似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資信託は公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

(1) 未払費用 (2) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と類似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内
現金・預金	572,617	-
金銭の信託	900,000	-
未収委託者報酬	168,395	-
投資有価証券		
その他有価証券のうち満期があるもの	-	50,070
合 計	1,641,012	50,070

当事業年度（平成28年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内
現金・預金	633,193	-
金銭の信託	1,300,000	-
未収委託者報酬	163,708	-
投資有価証券		
その他有価証券のうち満期があるもの	-	-
合 計	2,096,901	-

（有価証券関係）

1. その他有価証券

前事業年度（平成27年3月31日）

区分	貸借対照表計上額 （千円）	取得原価 （千円）	差額 （千円）
貸借対照表計上額が取得原 価を超えるもの			
（1）株式	-	-	-
（2）債券	-	-	-
（3）その他	50,070	50,000	70
小 計	50,070	50,000	70
貸借対照表計上額が取得原 価を超えないもの			
（1）株式	-	-	-
（2）債券	-	-	-
（3）その他	-	-	-
小 計	-	-	-
合 計	50,070	50,000	70

当事業年度（平成28年3月31日）

該当事項はありません。

2. 売却したその他有価証券

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	5,129	129	-
合計	5,129	129	-

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	57,526	65	166
合計	57,526	65	166

(デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	36,163千円	-
未払費用	980千円	1,268千円
未払事業所税	159千円	203千円
未払事業税	4,099千円	8,386千円
賞与引当金	6,754千円	5,640千円
減価償却超過額	-	232千円
繰延資産	-	571千円
資産除去債務	-	1,745千円
その他	3,185千円	6,018千円
繰延税金資産小計	51,342千円	24,066千円
評価性引当金	3,185千円	7,764千円
繰延税金資産合計	48,157千円	16,302千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	22千円	-
建物付属設備	-	1,617千円
繰延税金負債合計	22千円	1,617千円
繰延税金資産純額	48,157千円	14,685千円
繰延税金負債純額	22千円	-

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
法定実効税率 (調整)	35.64%	33.06%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.30%	0.40%
住民税均等割等	0.12%	0.05%
評価性引当額の増減	12.16%	0.81%
その他	0.92%	0.81%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	22.97%	33.51%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」（平成28年法律第13号）が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の33.10%から平成28年4月1日に開始する事業年度及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については、30.86%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、30.62%にそれぞれ変更されております。

この税率変更による影響は軽微であります。

(資産除去債務関係)

1. 当該資産除去債務の概要

建物賃貸借契約に基づき使用する建物等の、退去時における原状回復義務であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を10年と見積り、割引率を0%として資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当事業年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
期首残高	-	-
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	5,699千円
時の経過による調整額	-	-
見積りの変更による増加額	-	-
資産除去債務の履行による減少額	-	-
期末残高	-	5,699千円

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

前事業年度（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）及び当事業年度（自平成27年4月1日至平成28年3月31日）

当社は、投資運用業、投資助言・代理業を主とした金融サービスの提供を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託運用業務	投資一任業務	情報提供業務	合 計
外部顧客への営業収益	2,077,454	-	-	2,077,454

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載は省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託運用業務	投資一任業務	情報提供業務	合 計
外部顧客への営業収益	1,800,132	-	-	1,800,132

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載は省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社

前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の被所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
兄弟会社	楽天証券株式会社	東京都品川区	7,495 (平成27年3月31日現在)	インターネット証券取引サービス業	-	兼任 2人	当社投資信託の募集の取扱い等	証券投資信託の代行手数料	425,375	未払費用	27,880

当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の被所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
兄弟会社	楽天証券株式会社	東京都世田谷区	7,495 (平成28年3月31日現在)	インターネット証券取引サービス業	-	兼任 2人	当社投資信託の募集の取扱い等	証券投資信託の代行手数料等 出向者の人件費等	361,096 6,647	未払費用	23,852

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 証券投資信託の代行手数料については、一般取引先に対する取引条件と同様に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

楽天株式会社(東京証券取引所に上場)

（1株当たり情報）

	前事業年度 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）	当事業年度 （自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）
1株当たり純資産額	118,710円22銭	147,572円30銭
1株当たり当期純利益金額	46,938円07銭	28,865円73銭

- （注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	前事業年度 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）	当事業年度 （自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額（千円）	610,194	375,254
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額（千円）	610,194	375,254
普通株式の期中平均株式数（株）	13,000.00	13,000.00

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

		当中間会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金		538,988
金銭の信託		1,300,000
前払費用		7,209
未収入金		676
未収委託者報酬		127,046
立替金		6,496
繰延税金資産		9,708
その他		3,010
流動資産計		1,993,135
固定資産		
有形固定資産	1	46,093
建物（純額）		28,022
器具備品（純額）		18,070
投資その他の資産		4,094
投資有価証券		2,958
長期前払費用		1,136
固定資産計		50,188
資産合計		2,043,323

（単位：千円）

当中間会計期間 (平成28年9月30日)	
負債の部	
流動負債	
預り金	6,408
未払費用	73,033
未払消費税等	7,651
未払法人税等	51,418
賞与引当金	17,807
役員賞与引当金	3,062
流動負債計	159,382
固定負債	
繰延税金負債	645
資産除去債務	5,699
固定負債計	6,345
負債合計	165,728
純資産の部	
株主資本	
資本金	150,000
資本剰余金	
資本準備金	400,000
その他資本剰余金	229,716
資本剰余金合計	629,716
利益剰余金	
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	1,097,908
利益剰余金合計	1,097,908
株主資本合計	1,877,624
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	28
評価・換算差額合計	28
純資産合計	1,877,595
負債・純資産合計	2,043,323

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

当中間会計期間	
(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	
営業収益	
委託者報酬	643,975
その他営業収益	-
営業収益計	643,975
営業費用	
支払手数料	274,776
広告宣伝費	1,255
通信費	32,949
協会費	1,074
諸会費	84
営業費用計	310,140
一般管理費	1
1	172,720
営業利益	161,114
営業外収益	
受取利息	3
有価証券利息	226
雑収入	87
営業外収益計	317
営業外費用	
為替差損	138
営業外費用計	138
経常利益	161,292
特別利益	
特別利益計	-
特別損失	
固定資産売却損	185
特別損失計	185
税引前中間純利益	161,107
法人税、住民税及び事業税	46,287
法人税等調整額	5,635
中間純利益	109,184

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	150,000	400,000	229,716	629,716
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）				
当中間期変動額合計	-	-	-	-
当中間期末残高	150,000	400,000	229,716	629,716

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		株主資本 合計	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合 計				
当期首残高	1,138,723	1,138,723	1,918,439	-	-	1,918,439
当中間期変動額						
剰余金の配当	150,000	150,000	150,000			150,000
中間純利益	109,184	109,184	109,184			109,184
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 （純額）				28	28	28
当中間期変動額合計	40,816	40,816	40,816	28	28	40,844
当中間期末残高	1,097,908	1,097,908	1,877,624	28	28	1,877,595

[注記事項]

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）を採用しております。

(2) 金銭の信託

時価法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10年

器具備品 4年～20年

また、取得価額が100千円以上200千円未満の減価償却資産につきましては、3年均等償却によっております。

(2) 長期前払費用

定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上することとしております。

(2) 賞与引当金

従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員への賞与の支払いに備えるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間末において負担すべき額を計上しております。

4. その他中間財務諸表作成の為の基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当中間会計期間の費用として処理しております。

(中間貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

当中間会計期間（平成28年9月30日）

有形固定資産の減価償却累計額

9,142千円

(中間損益計算書関係)

1 減価償却実施額

		当中間会計期間 (自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日)
有形固定資産		4,043千円
無形固定資産		-
合 計		4,043千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式	13,000株	-	-	13,000株

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	150	11,538.46	平成28年3月31日	平成28年6月29日

(リース取引関係)

該当事項はありません。

（金融商品関係）

当中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

1. 金融商品の時価等に関する事項

平成28年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価、並びにこれらの差額については次の通りです。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
資産			
(1) 現金・預金	538,988	538,988	-
(2) 金銭の信託	1,300,000	1,300,000	-
(3) 未収委託者報酬	127,046	127,046	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	2,958	2,958	-
資産計	1,968,992	1,968,992	-
負債			
(1) 未払費用	73,033	73,033	-
(2) 未払法人税等	51,418	51,418	-
負債計	124,451	124,451	-

（注）1. 金融商品の時価算定の方法

資産

(1)現金・預金 (2)金銭の信託 (3)未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と類似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

投資信託は公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

(1)未払費用 (2)未払法人税等

未払費用及び未払法人税等は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と類似していることから、当該帳簿価額によっております。

（有価証券関係）

1. その他有価証券

当中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

区分	中間貸借対照表計上額 （千円）	取得原価 （千円）	差額 （千円）
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
小計	-	-	-
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	2,958	3,000	41
小計	2,958	3,000	41
合計	2,958	3,000	41

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

当該資産除去債務の総額の増減

	当中間会計期間 (自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日)
期首残高	5,699千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-
時の経過による調整額	-
見積りの変更による増加額	-
中間期末残高	5,699千円

（セグメント情報等）

〔セグメント情報〕

当中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

当社は、投資運用業、投資助言・代理業を主とした金融サービスの提供を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

〔関連情報〕

当中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位:千円）

	投資信託運用業務	合 計
外部顧客への営業収益	643,975	643,975

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載は省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

〔報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報〕

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	当中間会計期間 (自平成28年4月1日至平成28年9月30日)
1株当たり純資産額	144,430円44銭
1株当たり中間純利益金額	8,398円81銭

（注）1．潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2．1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当中間会計期間 (自平成28年4月1日至平成28年9月30日)
1株当たり中間純利益金額	
中間純利益金額（千円）	109,184
普通株主に帰属しない金額（千円）	-
普通株式に係る中間純利益金額（千円）	109,184
普通株式の期中平均株式数（株）	13,000.00

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

<訂正前>

(1) 受託会社

名称	資本金の額 (平成28年7月末日現在)	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社 (再信託受託会社： 日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社)	三井住友信託銀行 342,037百万円 (日本トラスティ・ サービス信託銀行 51,000百万円)	銀行法に基づき銀行業を営むと ともに、金融機関の信託業務の 兼営等に関する法律（兼営法） に基づき信託業務を営んでいま す。

(中略)

(2) 販売会社

名称	資本金の額 (平成28年7月末日現在)	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社 ¹	342,037百万円	銀行法に基づき銀行業を営むと ともに、金融機関の信託業務の 兼営等に関する法律（兼営法） に基づき信託業務を営んでいま す。
楽天証券株式会社 ²	7,495百万円	金融商品取引法に定める第一種 金融商品取引業を営んでいま す。

1 三井住友信託銀行株式会社は、当初申込日においては委託会社による買付にかかる取得申込みのみを取扱い、継続申込期間は募集・販売業務を取扱いません。

2 楽天証券株式会社は、継続申込期間から募集・販売等の取扱いを開始します。

< 訂正後 >

(1) 受託会社

名称	資本金の額 (平成29年4月末日現在)	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社 (再信託受託会社： 日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社)	三井住友信託銀行 342,037百万円 (日本トラスティ・ サービス信託銀行 51,000百万円)	銀行法に基づき銀行業を営むと ともに、金融機関の信託業務の 兼営等に関する法律（兼営法） に基づき信託業務を営んでいま す。

(中略)

(2) 販売会社

名称	資本金の額 (平成29年4月末日現在)	事業の内容
楽天証券株式会社	7,495百万円	金融商品取引法に定める第一種 金融商品取引業を営んでいま す。

独立監査人の監査報告書

平成28年5月20日

楽天投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤	志保	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	西田	裕志	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている楽天投信投資顧問株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第10期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、楽天投信投資顧問株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

委託会社の平成27年3月31日をもって終了した前事業年度の財務諸表は、前任監査人によって監査が実施されている。前任監査人は、当該財務諸表に対して平成27年6月3日付で無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- () 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
- 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成28年11月11日

楽天投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤	志保	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	福村	寛	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている楽天投信投資顧問株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第11期事業年度の中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、楽天投信投資顧問株式会社の平成28年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 1 . 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成 29年 5月 22日

楽天投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤	志保	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	福村	寛	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている楽天ターゲットイヤー2030の平成28年10月3日から平成29年4月2日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、楽天ターゲットイヤー2030の平成29年4月2日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成28年10月3日から平成29年4月2日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

楽天投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 1 . 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成 29年 5月 22日

楽天投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤	志保	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	福村	寛	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている楽天ターゲットイヤー2040の平成28年10月3日から平成29年4月2日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、楽天ターゲットイヤー2040の平成29年4月2日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成28年10月3日から平成29年4月2日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

楽天投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 1 . 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成 29年 5月 22日

楽天投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤	志保	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	福村	寛	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている楽天ターゲットイヤー2050の平成28年10月3日から平成29年4月2日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、楽天ターゲットイヤー2050の平成29年4月2日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成28年10月3日から平成29年4月2日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

楽天投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 1 . 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)